

学励コース「医療専攻」たより



新潟県立新潟西高等学校 Vol.4 平成25年8月20日

医療業務に携わる人材(看護師・保健師・医療検査技師・診療放射線技師等)育成のための進学指導を行います。新潟大学医学部保健学科、新潟県立看護大学、新潟医療福祉大学、新潟青陵大学等の進学を目指します。

7月26日 1学年対象医療講演会：「普通科学励コース医療専攻の若者に期待する」

講師：荒川正昭先生



新潟県の医療に長く御尽力なさる荒川正昭先生ですが、新潟西高医療専攻プログラムも、そのスタートから先生に御支援いただいています。今年も1年生の学励コースを対象にお話しいただくことになりました。

来年度の文理選択が済んだばかりの1年生に対して「何故大学に進学するのか」と問い、「大學」の語が初めて用いられた中国古代から西洋、そして近代日本に至る歴史をたどりながら、大学は学問の府であり、学問に精進し、教え教わる心の触れあいによって人格を磨く場であることを説かれました。昨今の就職・資格取得が重視される傾向に対して、専門教育以前の教養(Liberal Arts)教育が重要だという御指摘もありました。

御専門の医学については、病院 Hospital、治療 Therapy の語源からひもとく医療者の心構え、この心を共にする様々な知識・技能を持つ専門家集団が現在のチーム医療を支えているということ、具体的には看護師や診療放射線技師、臨床検査技師などを養成するシステムや基本法までお話は及びました。「名医ではなく良医」、「患者は最良の教師である」という言葉、また新大医学部キャンパスから株分けされた御自宅の「ヒポクラテスの木」など嬉しそうに御紹介いただいたのが印象的でした。

学励コースの生徒にとって気になる「入試」ですが、体力・気力の勝負を支える健康づくりのためにも、運動・遊び・休養・学習の生活リズムを造ることというアドバイスをいただき、「おしゃれ(身だしなみ)も大切」にうなずく姿も見られました。学習は大前提であり、先輩医師の「勉強しすぎて身体を壊した人はいない」「第二内科の灯は12時に消え0時に点く」や、「Bad morning!」という留学時代のお叱りなど刺激的かつユーモラスな名言を紹介、「高い志と熱い情熱」をもって「挑戦しよう、死にものぐるいで勉強しよう」という激励をいただき、90分に及ぶお話はあっという間でした。その後、次々に出る生徒の質問にも誠実にお答えくださる先生のお人柄にも感動、医療専攻を希望する生徒はもちろん、大学進学をめざす学励コースの生徒にとって、勉強への意欲をかき立て、人間的成長を志すよい契機となりました。高校1年の夏休み、がんばれそうです。

8月1日 すがはら消化器内科クリニック見学

新潟西高グラウンドのお隣り、徒歩3分の身近な個人病院で、休診の午後にお時間をいただきました。



- A 菅原先生のお話
- B 看護師さんの経験談
- C オリンパス社員さんによる内視鏡の仕組みと画像診断
- D 東芝メディカル社員さんによる超音波診断装置の仕組み

A 診察室で、菅原先生から地域に密着した個人開業医としての役割、総合病院との役割分担などのお話がありました。また実際の消化器系の病理画像を見て、ガンの診断についてもうかがいました。

自分で個人病院を開いて、少しでも（総合）病院の負担（軽症の患者さんが外来に多いと、本当に助けが必要な人に手が回らない）を減らしたいという思いから今に至ると聞いて、すごいなと思いました。そういう強い考えや意志を持つことがとても大事だと思いました。

B 待合室で、看護師さんたちから学校卒業からの経緯をお話いただきました。総合病院からスタートしていろいろな経験を積んだこと、女性としての生き方（結婚・出産を経て復帰まで）から看護師としての心構え、また救えなかった患者さんの話も印象深くうかがいました。



菅原先生のお計らいで、二つの医療機器メーカーから社員さんが説明に来てくださいました。民間企業の第一線の営業マン・技術者の方から仕事に誇りを持って働くことの意味、仕事＝技術の進歩に伴い勉強を続けること、といった社会人としてのあり方をも学ぶことができたと思います。

C 内視鏡室：消化器系の病院に欠かせない内視鏡による画像診断やその仕組みを実際の操作も交えて説明してくださいました。

小さながんなどは電気メスで切除可能、昔なら切っていたものが、1本の管で治療が出来ると知り、医療技術の進歩は素晴らしいと感じた。

D エコー室：内視鏡では見ることのできない臓器の診断、画像の読み方を教わり、実際に「プローブ」をあて、肝臓や心臓を見せていた

いただきました。エコーの操作・診断は医師しかできないなど、機器の操作でも看護師と医師とは明確に違いがあることも知りました。

私は助産師をめざしているので、将来エコーを使う機会が増えると思うと、楽しみです。

この日帰りに駅で、説明して下さった看護師さんに会って、気さくに声をかけていただいた。クリニックの明るく、患者さんが安心できそうな雰囲気は、この明るく気さくな看護師さんたちのおかげだと思った。

前回の新大病院とは対照的な身近な個人病院でしたが、こちらも学ぶことの多い見学でした。医療者としても、企業人としても分かれ道は社会へ出てからまたあるのだから、大学までは幅広い視野を持って勉強することが大事だと思いました。クリニックの皆さん、両社の皆さんのご協力に心から感謝です。

